

アルフレッド・マーシャル（1842～1924年）は英国の大経済学者で、新古典派と呼ばれる現代の経済理論の創始者の一人とされる。ケンブリッジ大学で教鞭をとり、A・C・ピグーやJ・M・ケインズなど、経済学をけん引した多くの弟子から大変に尊敬されていてことでも知られる。マーシャルの流れをくむ経済学者たちはケンブリッジ学派と呼ばれる一大学

やさしい経済学

危機・先人に学ぶ マーシャル

■ クールな頭 温かい心

矢野 誠



派を形成し、現代経済学の発展に大きな貢献をした。「クールな頭、温かい心」というのはマーシャルの有名な言葉である。これは1885年、ケンブリッジ大学教授に就任した際の記念講演で述べられた。しかし、有名であるがゆえに、意図と随分違つて伝わっているように感じる。現代に生き

る我々がマーシャルから何かを学ぶには、最初に彼の本物のメッセージに触れておくのもよいだろう。

「クールな頭、温かい心」は、経済学や経済政策に携わるものにとって不可欠の素養だとされる場合が多い。しかし、彼が伝えたかったのは安易なパターーナリズム（父権主義）ではない。

京都大学教授 矢野 誠

えである。マーシャルの思想は、人間は誰もが利他的な心を持つ、という見方に支えられている。

当時、極貧にあぐぐ人々がたくさんいた。そうした人たちが、より良い住居、より良い食事、より長い余暇を楽しむには、より大きな富を作りだし、その富を適切に分配し、利用する必要がある。そのため、一人ひとりが冷静な判断に基づく。ロチエスター大博士（経済学）。専門は理論経済学

時に、少しずつ利他性を發揮することが最も近道だというのが彼の考え方である。

現代は当時と比べると、格段に豊かになった。とい

つても、一人ひとりが「ク

ールな頭」と「温かい心

を持つことが、豊かで明るい経済を創出するために不

可欠だということに変わりはないだろう。

やの・まこと 52年生まれ。ロチエスター大博士（経